

大阪ろうさい クロニクル

第15号

発行日
2026.1.1

新年のごあいさつ

院長 平松 直樹



新年明けましておめでとうございます。心も新たに、今年もどうぞよろしくお願いいたします。年始にあたりご挨拶申し上げます。

昨年11月に近畿大学(近大)が堺市に移転してされました。近大病院とは、以前より様々な部署で診療連携を行っていただいております。これからも引き続き“共存共栄”を目指してまいります。

近大病院のオープニング式典では、世耕理事長、吉村府知事、永藤市長ら、錚々たる方々のご挨拶がありました。総費用1千億円の近大キャンパスにある近大病院は、大規模であり、立派なERが設置され、日本初はじめ様々な最新の機器が備えられています。受付はアバターが行い、外来予約もスマホでできます。当院も昨年、お陰様で新病院のグランドオープンを迎えましたが、より小規模で、最新の機器ではありますが、驚くようなシステムの搭載はなく、受付も外来予約も人が行っております。新たに外来に地域枠を設けさせていただいて、開業医の先生方からのご予約はかなり円滑になったかと存じますが、まだまだマニュアルのところが多くありません。

こうしたことから思いますことは、以前からのイメージどおり、やはり、近大病院と当院は、いわば大手の一流ホテルと古き良き伝統を引き継ぐ老舗旅館のようです。そして、当院のような老舗病院には老舗病院なりの良さと役割があります。

(大阪ろうさい病院の信条)

- ・どんな患者さんにも受診を希望していただけるような病院
- ・心のこもった患者さんにとって最善の医療を行う病院
- ・どんなことでも相談できる病院
- ・不治の病であっても信頼して安心して心と体を預けていただける病院

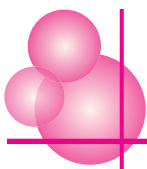
大阪ろうさい病院は、こうした病院であり続けていられるよう尽力してまいります。病院長を拝命してから、今年が3年目となります。皆さまから大いなるサポートをいただきながら、こうした病院の信条を達成するため、“働きがいのある職場”を作ること为目标に“見る前に跳べ”を実践し続けてまいりました。今年も職員一同ワンチームとなり、干支の午(馬)のように、ぜひ“飛躍”の年にいたします。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

基本理念

誠実で質の高い医療を行い、
すべての方々から選ばれる病院に

基本方針

1. 地域と連携し地域に信頼される急性期医療を行います
2. 高度で安全な医療に全力をあげてとりくみます
3. 患者さまの立場と権利を尊重する医療に努めます
4. 勤労者医療を担ってこれを推進します
5. 働きがいのある職場づくりを推進します



新年のご挨拶

特任院長 にし の まさ み 西 野 雅 巳



皆さま、謹んで新春のお祝いを申し上げます。昨年1月に大阪ろうさい病院はグランドオープンとなり、60年ぶりに完成した新病院で働き、1年が無事経過しました。広い手術室、3室並列で使い勝手のいい心臓カテーテル室、28室のユニット系病棟(ICUおよびHCU)をそろえた3階の高度急性期医療センターを中心に1階の増床された救急部、1、2階の外来部門、新しい入院病室、10階の見晴らしのいい講堂、など働きやすい新病院にも慣れ、昨年完成した広大な駐車場とそこに乗り入れてくる便利なバスにも驚かなくなってきました。

堺の医療情勢としては昨年11月にオープンした近畿大学病院がやはり大きな話題となっています。堺だけを考えるとやや医療過密な印象はぬぐえませんが近畿大学病院は堺南部であり大阪ろうさい病院は堺北部に位置し、医療圏は大きくは重なりません。今後、大阪ろうさい病院は堺北部、および堺以外としてその東部および南部にまたがる松原市、羽曳野市、藤井寺市、富田林市、すなわち世界遺産の百舌鳥・古市古墳群のエリアにも高度医療を中心とした循環器疾患およびがん疾患の信頼できる医療を提供したいと考えております。

当院は循環器疾患治療とがん診療を2つの柱とし今後も地域医療に貢献していく所存でございますが、小生が専門としている循環器疾患治療について少しふれさせていただきます。虚血性心疾患、不整脈治療(南大阪最多のアブレーション件数)を中心に24時間受け付けるハートコール体制は上記に述べましたとおり、新しい心臓カテーテル室3室が並列に稼働しており、いかなる状況でも非常に効率よく循環器高度医療を提供できる体制が維持できるようになっています。また近年増加している弁膜症治療を中心とした構造的な心疾患(SHD: structural heart disease)の治療におきましても新病院手術室に広いハイブリッド手術室が完成したのち、大動脈弁狭窄の治療である経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)ばかりでなく僧帽弁閉鎖不全症の治療である経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip®)も順調に症例数が増加し、高齢者心不全患者さまに朗報となっております。

大阪ろうさい病院は循環器疾患治療・がん診療を2本の柱とし、さらに眼科・整形外科においても多数の手術を行い、最良の医療を提供しております。今後も大阪ろうさい病院は上記に述べました地域を中心に“誠実で質の高い”医療を提供できるよう邁進してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

～医療における「智・情・意」～

副院長 いわ 岩 さき 崎 もと 幹 き 季



新年、明けましておめでとうございます。

2024年に発行された新1万円札の顔に選ばれた渋沢栄一の著書『論語と算盤』は、時代を超えて読み継がれる名著です。その中で彼は「智・情・意」の三者のバランスが取れて初めて「完全な常識」となると説いています。この「智・情・意」のバランスの難しさについては夏目漱石の著書『草枕』の冒頭にも、「智に働けば角が立つ。情に棹(さお)させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角(とかく)に人の世は住みにくい。」と表現されているとおりです。

病院経営においては、収支といった「算盤」が重要であるのは言うまでもありません。しかし、新年最初のテーマとして、医療における「智・情・意」について改めて考えてみたいと思います。

「智」は知性のことで、専門的知識や医療技術を指します。日進月歩の医療において、常に最新の知識と技術を習得し研鑽を積むことが医療の安全性を支える柱となります。

「情」は、喜怒哀楽といった感情を表すものですが、医療においては患者さまへの優しさや思いやりが核となります。患者さまの「ため」を考えるだけでなく、患者さまの「立場」に立って共感し寄り添う姿勢が大切です。

「意」は意志や意欲、そして信念です。変化の激しい医療現場において正しいと信じる道を貫くためには、揺るぎない意志や医療人としての熱意が不可欠です。

医療は「智」のみで完璧に行えるものではありません。病と向き合う弱者である患者さまに対し、共感や思いやりといった「情」が希薄であれば患者さまとの信頼関係を損ねます。また、感情に流されすぎると判断を誤りかねません。それらを制御する確固たる「意」があってこそ、医療人としての在り方が定まります。

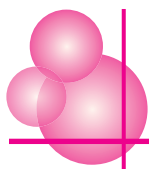
当院では各職員がそれぞれの立場で、この「智・情・意」の三者がバランス良く機能し理想の医療を提供できるよう日々研鑽を重ねていく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



源光庵(京都)：悟りの窓(写真：左)の円形は「禅と円通」の心を表し、迷いの窓(写真：右)の角型は「人間の生涯」を象徴し生老病死の四苦八苦を表しています。

(<https://genkouan.or.jp/mado/>)



新年のご挨拶

副院長 つじ はた まさ お
辻 畑 正 雄



新年、あけましておめでとうございます。旧年中は、格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、医療業界は、人口減少・超高齢化社会からくる労働人口の減少、その上働き方改革に伴い、マンパワー不足は慢性的な状況となっております。また物価高騰や人件費高騰にもかかわらず、診療報酬という公定価格で収入を定められているため、多くの病院の経営が圧迫されており危機的状況に陥っているところも少なくありません。そのため医療機器の導入や更新ができず、旧式の機器をなんとか修理しながら診療を行わざるを得ないという医療機関も少なくないと思われます。しかし、患者さまにとっては最新の優れた医療を受けるということが第一であり、そのためには病院として優秀な人材確保を行うことは最も大切な案件ではありますが、最新の機器の導入や更新を行うことで医療設備を充実させることも重要であると考えます。そのような中で当院では昨年、医療用脊椎ロボットやX線検査も行える新しい体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)、眼科用検査機器など高額機器の導入を行いました。また今年は医療用ロボット“ダ・ヴィンチ”の2台目を導入する予定で、さらに脳神経外科用血管造影装置や手術室用X線透視装置などの高額機器を導入する予定です。このように当院では、医療設備の充実をはかり患者さまに素晴らしい医療を提供してまいりたいと考えております。

大阪ろうさい病院では、当院の強みである、がん診療、ハート／ブレイン領域を兼ね備えた循環器センター、眼科領域のアイセンター、整形外科部門を柱として、各診療科が連携を密に患者さまに素晴らしい医療を提供することで、この苦難を乗り越えていきたいと考えております。また、救急医療においても“断らない救急”を理念にさらにパワーアップして行ってまいりたいと考えております。

最後に、地域の皆さまに、より信頼される病院を目指してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

診療科紹介 整形外科

整形外科部長 かいと たか し 海 渡 貴 司



大阪ろうさい病院整形外科は、脊椎外科・関節外科・スポーツ整形外科・手外科・リウマチ科の各専門分野を有するスタッフ17名、専攻医4名の計21名で診療を行っています。外来および入院診療のいずれにおいても高度専門的かつチーム医療を重視し、地域の中核病院として幅広い運動器疾患に対応しています。

2025年の手術件数は2,000件を超える見込みで、大阪府下でも有数の規模を誇ります。各分野で専門的治療の実践と最新技術の導入を進め、患者さま一人ひとりに最適な医療を提供しています。

脊椎外科では、内視鏡を用いた低侵襲手術から高度変形矯正術まで幅広く対応し、ナビゲーションやロボット支援技術を積極的に導入しています。脊椎変性疾患、側弯症、骨粗鬆症性椎体骨折などに対して、安全かつ精密な手術を実践しています。

関節外科では、ナビゲーションシステムを活用した人工股関節・膝関節置換術(TKA・UKA)を中心に、再置換術やステム周囲骨折などの難症例にも対応しています。感染予防と周術期管理を徹底し、早期社会復帰を支援しています。

スポーツ整形外科では、膝関節を中心に鏡視下手術や骨切り術を行い、レクリエーションレベルから競技アスリートまで、復帰を見据えた治療とリハビリテーションを提供しています。

手外科では、骨折後の難治例、変性疾患、関節リウマチによる手指変形などを対象に、関節鏡・人工関節・マイクロサージェリー技術を駆使した機能再建を行っています。

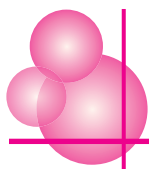
リウマチ科では、薬物療法と外科的治療を組み合わせた総合的治療を実践し、関節機能の維持・再建を通じて生活の質の向上を目指しています。(2026年4月より一時閉鎖予定)

今後も大阪ろうさい病院整形外科は、安全で質の高い医療を提供するとともに、地域医療機関との連携をさらに強化し、運動器の健康を支える診療体制を発展させてまいります。

[各専門分野の外来日]

	月	火	水	木	金	専門医
脊椎外科	○	—	—	○	○	岩崎幹季、海渡貴司、寺川雅基、古市拓也、中庭和敬
関節外科	—	○	○	—	—	山村在慶、福永健治、竹村進、大山洋平、西岡勇登
スポーツ整形外科	○	—	—	○	○	衣笠和孝、橘優太、西川智也
手外科	—	○	○	—	○	川端確、飯盛謙介
リウマチ科	○	○	○	—	○	坪井秀規、五島篤史

+ 救急随時



部門紹介 薬剤部

～安全・安心な外来がん化学療法を目指して～

薬剤部長 満 田 正 樹



薬剤部は、患者さまに安全かつ効果的な薬物治療を提供するために活動しています。現在、薬剤師41名、薬剤助手6名、事務員2名の専門スタッフが、医療チームの一員として、患者さまに、薬剤管理、調剤、副作用の確認・対応などの業務を行っています。薬剤師は、患者さま一人ひとりの病状や使用する薬剤について細かく情報収集し、医師や他の医療スタッフと協力して最適な治療方針を検討しています。また、患者さまに薬について分かりやすく説明し、正しい薬の使い方や副作用なども説明しています。

近年、がん薬物療法は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの登場により高度化・複雑化しています。こうした状況を踏まえ、令和6年度診療報酬改定では、チーム医療体制や安全管理の充実を評価する新たな仕組みとして、「がん薬物療法体制充実加算」が新設されました。患者さまが外来がん化学療法を受ける際、薬剤師が医師の診察前に服用状況や副作用等の情報を収集したり医師へ処方に関する提案をしたりすることで加算が算定できるようになりました。当院では、がん認定・専門薬剤師を複数名配置し、安全な外来がん化学療法を患者さまが安心して受けられるよう取り組んでいます。また、地域の保険調剤薬局薬剤師とも連携し、患者さまの副作用の状況などを共有し、医師にフィードバックを行っています。患者さまのニーズに対応できる薬剤部を目指し、何事にも誠意をもって対応していきます。今後ともよろしくお願いいたします。



抗がん剤調製の風景



(薬剤師外来)診察前面談の風景

新年のご挨拶

看護部長 よしなが かよこ
吉 永 加代子



2025年は、大阪・関西万博の開催や日本初の女性首相の誕生など、未来を見据えて“動く”一年となりました。社会が大きく変化する中で、私たち看護部もまた、看護機能の強化と人材の確保・育成に向けて着実に歩みを進めてまいりました。

2025年6月には、救急医療・内視鏡診療・がん診療体制の質向上を目指し、特殊外来の機能と体制を見直しました。これまで一単位で運用していた救急外来・内視鏡センター・化学療法室のうち、化学療法室を分離。さらに、がんセンターと統合することで、よりシームレスで質の高いがん看護の提供に取り組んでいます。

また、9月には『世界認知症の日』にちなみ、認知症週間イベントを開催。認定看護師や師長補佐を中心に、他職種と連携して「認知症体操」や認知症サポーター研修を実施しました。堺市北区役所の皆さまにもご協力いただき、入院・外来の患者さま、そして地域の皆さまに認知症への理解を深めていただく貴重な機会となりました。

人材確保と育成においては、新ラダーへの教育体制の移行に加え、隣接する大阪労災看護専門学校との連携を強化。継続教育や検討会の開催、スタッフによる看護学校見学など、次世代の看護職育成に取り組んでいます。

急性期医療を受ける患者像はますます複雑化・多様化しており、看護職への期待も広がっています。そこで、特定行為研修修了者や認定看護師のユニフォームを刷新し、他職種の方々や患者さまの認知度が高まり、ケアの相談や依頼の増加に繋がっています。

2026年は、医療DXの導入(デジタル機器の整備)を推進するとともに、看護職が“いきいきと働き続けられる職場環境づくり”と地域の皆さまに真心のこもった看護を提供できるように、看護部一丸となって取り組んでまいります。

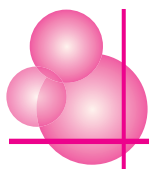
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



【認知症週間スタッフ】



【リソースナーススタッフ】



部門紹介 チームで支える整形外科看護

～高度医療とあたたかなケアを目指して～

整形外科病棟

西4階病棟看護師長

東8階病棟看護師長

西8階病棟看護師長

つる
鶴
みち
道
なか
中

た
田
くら
倉
しま
島

さち
幸
み
美
とう
燈

こ
子
ゆき
幸
こ
子



【多様な専門分野と高度な医療体制】

当院の整形外科は、整形外科医21名と105床の病床を有し、年間約1,600件の手術を実施するなど、全国有数の規模を誇ります。脊椎変性疾患や側弯症などの脊椎外科、人工関節手術を中心とした関節外科、手・肘関節を対象とした手外科に加え、リウマチ科やスポーツ整形外科など各分野の専門医が高度な医療を提供しています。

【社会的ニーズに応える整形外科看護】

高齢化の進行に伴い、股関節・膝関節・脊椎疾患の患者さまは年々増加し、整形外科に対する社会的ニーズはますます高まっています。整形外科の看護として「機能回復を支える看護」「早期社会復帰の支援」を目標に患者さまの生活の質(QOL)の維持・向上に努め、患者さま一人ひとりに寄り添った看護ケアを提供しています。

西8階は整形外科単科病棟で、スポーツ整形外科の院内認定看護師がアスリートを含む患者さまの競技復帰、日常生活復帰を全面的にサポートしています。東8階は小児科と整形外科の混合病棟で、小児看護の特性を活かした看護ケアを行っています。昨年の夏には『こどもの側わん症を知っていますか』をテーマに市民公開講座を開催し、疾患の啓蒙活動にも取り組みました。多くの地域住民の皆さまにご参加いただき、整形外科看護の役割を発信する機会となりました。西4階は産婦人科と乳腺外科との混合病棟で、女性患者さまの生涯にわたる看護ケアを提供しています。特に整形外科疾患は女性ホルモンとも関連が強く、ライフステージに伴うホルモンの変化と生活背景をふまえた支援を行っています。

【チーム医療と地域連携による退院支援】

患者さまが安心して社会や日常生活へ復帰できるよう、多職種によるチーム医療を重視しています。医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・医療ソーシャルワーカーと日々の情報を共有し、地域の医療機関や介護施設と連携しながら患者さまの状態に応じた退院支援を行っています。



スポーツ整形外科の看護院内認定看護師による指導



8階病棟にあるリハビリ室での訓練

独立行政法人
労働者健康安全機構 **大阪ろうさい病院**

日本医療機能評価機構認定病院

地域がん診療連携拠点病院

地域医療支援病院

〒591-8025
大阪府堺市北区長曾根町1179-3

TEL 072-252-3561(代表)

072-255-8076(メディカルサポートセンター)

FAX 072-255-8203(メディカルサポートセンター)

<https://www.osakah.johas.go.jp/>



(病院HP)